

1. 高齢者の交通手段について

- Q** 路線バスも廃止され、運転のできない高齢者は、買い物・病院に行くのに困っている。家まで来てくれる乗り合いタクシーの導入を図るべきではないか。
A 運転のできる高齢者や地域の組織と連携していけるシステムを作れないか。
 生活交通を確保したい地域に対し、技術支援や運行経費に対する補助を行なうことにしている。それぞれの地域の実情やニーズに合った生活交通を検討してまいりたい。



2. 挨拶の推奨について

- Q** 最近、小中学生の挨拶の習慣が少なくなっている。学校ではどのような挨拶指導をしているのか。その効果、実態はどうか。
A 各校が工夫して挨拶の励行に取り組んでいる。また、保護者や地域の方の挨拶運動の広がりによって、地域が一体となって子どもを育てる意識を高める。

3. 障害者教育の導入について

- Q** 小中学生の時、耳の不自由な人の手助けをするために手話教育を導入したり、目の不自由な人の話を聞くなどして、障害者に対する理解を深めるべきではないか。
A 小中学校では福祉に関わる学習を行なっている。車椅子体験をしたり、障害のある方の話を聞くなどして、全ての人がよりよく生きるために何が大切かについて考えるよい機会になっている。

4. 18歳選挙権の導入について

- Q** 18歳から20歳未満の投票率
 7月の参議院選挙での調査では、18歳から20歳未満の投票率は39.05%、20歳代は29.69%、30歳代の37.25%よりは高くなっている。40歳代の46.34%を初め、これより上の年代の投票率については総じて高く、これらの世代に比べると低い。
- Q** 平成10年4月2日以降生まれとそれ以外の18歳以上20歳未満の投票率
 データがない。
- Q** 18歳と19歳の投票率に差が生じた場合、その理由は何か。
 7月の参議院選挙での調査によれば、18歳の投票率は48.29%、19歳の投票率は28.16%と差がある。18歳の有権者の中には高校生もいて、高校での選挙の仕組みの講義や模擬投票の実施の効果により政治参加への関心が高まったものと考えられる。一方で19歳の有権者の中には、親元を離れても住所を移さないままの人が多く、低投票率の一因になっているとの指摘もある。
- Q** 若者の政治関心度
 公益財団法人明るい選挙推進協会の平成27年3月から4月の全国意識調査によると、政治関心度は20歳代がもっとも低い。
- Q** 投票率向上に向けての取り組み
 選挙権を得た初期段階で選挙に行くか行かないかにより、その後の投票行動が違っていると言われ、若者への選挙啓発は重要である。今後とも引き続き、若者への選挙啓発に努めたい。



5. 公園の造営について

- Q** 近くに公園がないので、公園を造って欲しいという地元の要望がある。
A 若い世代に住んでもらうためにも、地域の発展のためにも公園を造って欲しいが、その要件は何か。
 要望箇所周辺に遊園地などの広場が存在しない地区で10年以上の無償貸借が可能なおおむね100平米から1,000平米の用地が確保されていること、造成が完成していること、維持管理において住民の協力体制が整っていることなどの一定の要件を満たしたものをちびっ子広場として整備している。具体的な状況を聞きながら検討していく。

1. 給付型奨学金の導入について

- Q** 岡山市の奨学金を貸与型から、償還の必要のない給付型に変更すべきではないか。奨学金の利用状況、償還状態はどうか。
A 給付型奨学金については、平成29年度から住民税非課税世帯で私立大学等に自宅外から通学する人、児童養護施設退所者等を含む社会的養護が必要な人について一部先行実施予定。給付型奨学金制度の創設については、国の動向を注視していく。
 平成28年度の岡山市の奨学金の利用状況は、新規貸し付けが21人、継続貸し付けが15人で、計36人となっている。償還率は88.5%であり、滞納の解消に取り組んでいく。

2. 中高生を対象にした議会報告会、傍聴について

- Q** 政治や選挙に関心を持ってもらうために、中高生に会議の傍聴の経験をしてもらえないか。市議会議員と中高生との対談の機会を持てないか。
A 授業の中で市議会の中継を視聴したり、市議会の活動や役割などを調べることを通じて、中高生の政治への関心を高めるようにしたい。



3. 子どもの遊べる場所の提供について

- Q** 新しい公園を造ることが難しいのであれば、公民館やコミュニティハウスなどに遊具コーナーを設置してもらえないか。
A 公園の利用状況等を調査するとともに、維持管理していただいている町内会や愛護委員会の方々とも相談しながら対応している。



4. 防犯灯・防護柵の設置について

- Q** 用水路に落ちる事故を防ぐために防護柵の設置をしてもらえないか。通学路の防犯灯の設置要件と設置状況はどうか。その設置要件の周知はどのようにされているか。
A 用水路の危険性が高いと考ええると900力所を2年間の緊急整備期間と位置づけて集中的に安全対策をしていく。通学路防犯灯は、通学路で原則設置予定場所からおおむね100メートル以内に防犯灯や道路照明灯がないことを条件として町内会の要望に基づき設置することとしている。毎年50灯程度を新設。岡山市のホームページへの掲載、町内会へのお知らせ文の送付により周知している。

5. 小中学校の非正規教諭の割合と学力テストについて

- Q** 学力低下は何が問題か。学力を上げるために、長期にわたって教育現場に関わる正規職員を増やせないか。
A 全国学力・学習状況調査の活用の仕方や授業改善に向けた仕組みづくりが不十分であることが課題である。継続した研修によって資質向上を計画的に図っていくために、正規教員を増やす必要がある。教員の質や年齢を考え、児童・生徒数などの動向を踏まえ採用を行う。



岡山市議会のホームページから、過去の市議会での個人質問の様子が、録画でご覧いただけます。